

ウィキペディア

バンコク

出典: フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』

バンコク都（バンコクと、英: Bangkok, [bāːŋ kòːk] 聴く）もしくは**クルンテープマハナコーン**（กรุงเทพมหานคร,[krŭŋ t̚ɕ̚p mah ǎː nák̚t̚t̚n̚]は、タイ王国の首都。通称**クルンテープ**（กรุงเทพ,[krŭŋ t̚ɕːp] 聴く）。人口8,249,117人（2010年）、面積1568.737 km²。都市圏人口は2018年時点で1600万人を超えており、世界有数の大都市圏を形成している^[1]。ASEAN経済の中心地で、東南アジア屈指の**世界都市**でもある。

目次

名称

歴史

自然

気候

行政

都知事

歴代都知事

経済

日本企業

文化

メディア

芸術

スポーツ

サッカー

交通

ボート

鉄道

国鉄

BTS

地下鉄

エアポート・レール・リンク

バス

路線バス

中長距離バス

タクシー

トゥクトゥクやソンテウ

航空

観光

ホテル

姉妹都市

風景

舞台となった作品

<div><div><div><div><div></div><div>バンコク</div></div></div><div><div><div></div><div>กรุงเทพมหานคร</div></div><div><div></div><div>Bangkok</div></div></div><div><div><div></div></div></div></div></div>
首都府 <div>（都）</div>
バンコク都
<div><div><div><div><div></div><div></div></div><div><div></div><div></div></div></div><div><div><div></div><div></div></div><div><div></div><div></div></div></div><div><div><div></div><div></div></div><div><div></div><div></div></div></div></div></div> <div>上から:シーロム通り付近の展望、ワット・シーラッタナーサーサダーラーム、ワット・アルンラーチャワラーラーム、戦勝記念塔、ジャイアント・スウィング</div>
<div><div><div><div><div></div><div><div>旗</div></div></div></div><div><div><div><div></div><div><div>印章</div></div></div></div></div></div></div>
<div><div><div><div><div><div></div><div><div>北緯13度45分8秒 東経100度29分38秒</div></div></div></div></div></div></div>

建国当初はラッタナコーシン島のみがバンコクの中心として機能していたが、タイの経済発展と共に市街地は東へ延びていった。またラーマ5世(チュラーロンコーン)の時代にすでにラッタナコーシン島の王宮のみでは妻や子供を十分に収容することが出来ないため北にドウシット宮殿群を建設している。チュラーロンコーンの子供はさらに北にバーンクンプロム宮殿、スコータイタンマティベート宮殿などを建設している。



王宮

また、経済の中心もチャクリー王朝初期には当時ラッタナコーシン島から運河を挟んで東側のヤオワラートにあったが、20世紀後半にシーロム通りに中心が移った。そのためラッタナコーシン島周辺は現在、旧市街地と見なされることが多い。

建設からラーマ5世時代までは、バンコクはチャクリー王朝の王による直轄地であった。しかしラーマ5世の以降市街地が拡大を始めたため、チャクリー改革によって、バンコクは畿内省という機関の管轄に置かれることになった。

1972年には、拡大が進みバンコクの行政機関の手に負えなくなっていたノンタブリー県、サムットプラーカーン県、バトウムターニー県がバンコクから分離。一方で1975年にはバンコクと経済的に密な関係にあったドンブリー一県がバンコクに吸収されている。その間にもさらにバンコクの市街地の拡大が進んだ。



高層ビル群を背景としたルンピニー公園

とくに1980年代にはタイ国内の投資が拡大し、タイの経済の中心であるバンコクも必然的に発展する事になった。バンコクは特に目立って教育が普及しリベラルな住民が増えたため内務省の直接統治が難しくなった。このため1985年に『仏暦2528年バンコク首都府行政組織法』が国会で成立。これ以降、住民に選ばれた知事による自治が行われている。

自然

気候

バンコクは熱帯に位置し、年間を通じて最高気温は33℃前後、最低気温は20度から25度を保つ。バンコクの季節は、5月から10月にかけての蒸し暑く雨の降る雨季、11月から2月のやや涼しく過ごしやすい乾季、そして2月から5月にかけての雨があまり降らず非常に高温となる暑期の3つに分かれる。最高気温極値は40.0℃。最低気温極値は10.5℃。クルンテープ



バンコク中心部の高層ビル群

バンコク(1961年-1990年)の気候													[隠す]
月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年
最高気温記録 °C (°F)	35.7 (96.3)	36.6 (97.9)	37.8 (100)	40.0 (104)	39.5 (103.1)	37.7 (99.9)	37.8 (100)	37.0 (98.6)	36.0 (96.8)	35.3 (95.5)	35.1 (95.2)	35.2 (95.4)	40 (104)
平均最高気温 °C (°F)	32.0 (89.6)	32.7 (90.9)	33.7 (92.7)	34.9 (94.8)	34.0 (93.2)	33.1 (91.6)	32.7 (90.9)	32.5 (90.5)	32.3 (90.1)	32.0 (89.6)	31.6 (88.9)	31.3 (88.3)	32.7 (90.9)
日平均気温 °C (°F)	25.9 (78.6)	27.4 (81.3)	28.7 (83.7)	29.7 (85.5)	29.2 (84.6)	28.7 (83.7)	28.3 (82.9)	28.1 (82.6)	27.8 (82)	27.6 (81.7)	26.9 (80.4)	25.6 (78.1)	27.8 (82)
平均最低気温 °C (°F)	21.0 (69.8)	23.3 (73.9)	24.9 (76.8)	26.1 (79)	25.6 (78.1)	25.4 (77.7)	25.0 (77)	24.9 (76.8)	24.6 (76.3)	24.3 (75.7)	23.1 (73.6)	20.8 (69.4)	24.1 (75.4)
最低気温記録 °C (°F)	11.5 (52.7)	14.9 (58.8)	15.7 (60.3)	19.9 (67.8)	21.1 (70)	21.7 (71.1)	22.2 (72)	21.2 (70.2)	21.7 (71.1)	18.3 (64.9)	14.2 (57.6)	10.5 (50.9)	10.5 (50.9)
雨量 mm (inch)	9.1 (0.358)	29.9 (1.177)	28.6 (1.126)	64.7 (2.547)	220.4 (8.677)	149.3 (5.878)	154.5 (6.083)	196.7 (7.744)	344.2 (13.551)	241.6 (9.512)	48.1 (1.894)	9.7 (0.382)	1,496.8 (58.929)
平均降雨日数 (≥ 1 mm)	1	3	3	6	16	16	18	20	21	17	6	1	128
平均月間日照時間	272.8	251.4	269.7	258.0	217.0	177.0	170.5	161.2	156.0	198.4	234.0	263.5	2,629.5
出典 1: Thai Meteorological Department ^{[10]}													
出典 2: Hong Kong Observatory (daily mean, sunshine), ^{[11]} NOAA (extremes) ^{[12]}													

行政

バンコクは県(チャンワット)や市ではなく、首都を管轄する特別な地位を与えられた自治体である。そのため、タイの官公庁および日本の外務省の資料では「バンコク都」と表現され^{[13][14]}、その政庁も都庁と表記される。市または首都圏庁という訳もあるが、東京都と同様に行政機関の名称に市の意味を持たず(バンコク都庁 BMA:Bangkok Metropolitan Administration)、首都圏庁という場合は隣接5県を加えた都市圏もまたバンコク首都圏 (BMR:Bangkok Metropolitan Region)と表記され得ることに留意されたい。

都章はそのフルネームに由来するプラ・イン(インドラ)がエーラーワン象に乗っているところを示したものである。

下位の区画としてバンコクには50の区(ケート)が設置されている。

1. プラナコーン区

2. ドウシット区

3. ノーンチョーク区

4. バーンラック区

5. バーンケーン区

6. バーンカピ区

7. パトゥムワン区

8. ポーンプラープ区

9. プラカノーン区

10. ミンブリー区

11. ラートクラバン区

12. ヤーンナーワー区

13. サムパッタウォン区

14. パヤータイ区

15. トンブリー区

16. バーンコークヤイ区

17. フワイクワーン区

18. クローンサーン区

19. タリンチャン区

20. バーンコークノイ区

21. バーンクンティアン区

22. パーシーチャルーン区

23. ノーンケーム区

24. ラートブーラナ区

25. バーンプラット区
26. デインデーン区

27. ブンクム区

28. サートーン区

29. バーンスー区

30. チャトゥチャック区

31. バーンコーレーム区

32. ブラウエート区

33. クローントゥーイ区

34. スワンルワン区

35. チョームトーン区

36. ドーンムアン区

37. ラーチャテーウィー区

38. ラートプラオ区

39. ワッタナー区

40. バーンケー区

41. ラックシー区

42. サイマイ区

43. カンナーヤーオ区

44. サパーンスーン区

45. ワントーンラーン区

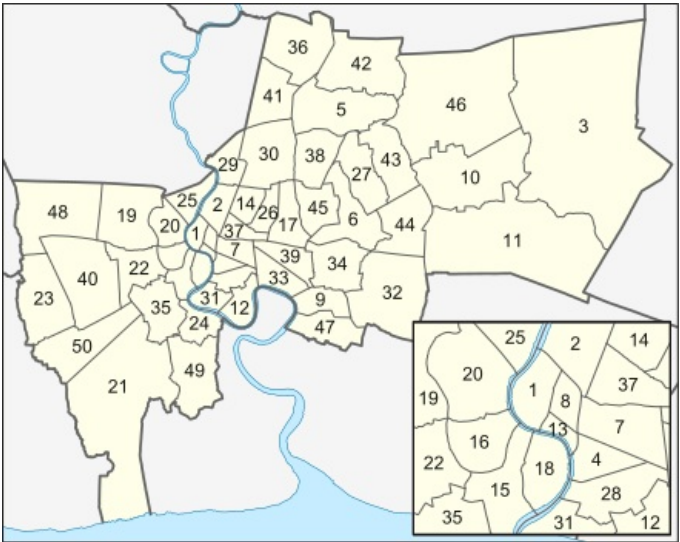
46. クローンサムワー区

47. バーンナー区

48. タウィーワッタナー区

49. トウンクル区

50. バーンボーン区



バンコク行政区分地図



バンコクの衛星写真

都知事

バンコクはある程度内閣による制限があるが、他の県と違い内務省の役人でなく民選の知事が行政を行う。2004年から2008年までアピラック・コーサヨーティンが知事を務めた。現在の知事は、アサウィン・クワンムアンである。

歴代都知事

代	名前	就任日	退任日	所属政党
1	<u>Chamnan Yaovabun</u>	1 January 1973	22 October 1973	(Appointed)
2	<u>At Visutyothaphiban</u>	1 November 1973	4 June 1974	(Appointed)
3	<u>Siri Santabutra</u>	5 June 1974	9 March 1975	(Appointed)
4	<u>Sai Hutacharoen</u>	5 May 1975	9 August 1975	(Appointed)
5	<u>Thammanoon Thien-ngern</u>	10 August 1975	29 April 1977	<u>民主党</u>
6	<u>Chalor Thammasiri</u>	29 April 1977	14 May 1979	(Appointed)
7	<u>Chaowat Sudlapa</u>	4 July 1979	16 April 1981	(Appointed)
8	<u>Admiral Thiem Mokaranont</u>	28 April 1981	1 November 1984	(Appointed)
9	<u>Asa Meksavan</u>	6 November 1984	13 November 1985	(Appointed)
10	<u>Maj-Gen チャムロン・シームアン</u>	14 November 1985	14 November 1989	<u>Ruam Phalang Group</u>
		7 January 1990	22 January 1992	<u>Palang Dharma Party</u>
11	<u>Captain グリッサダー・アルンウォン・ナ・アユタヤ</u>	19 April 1992	18 April 1996	<u>Independent</u>
12	<u>ピチット・ラッタグン</u>	3 June 1996	22 July 2000	<u>Independent</u>
13	<u>サマック・スントラウエート</u>	23 July 2000	28 August 2004	<u>Citizens Party</u>
		29 August 2004	28 August 2008	

都心部では高架鉄道や地下鉄が開通しているが、タイ国鉄には通勤輸送に活用できる郊外鉄道の路線網が少ない上、都心部の立体交差化の遅れからラッシュ時の列車運行本数が極端に制限されているため、中流階級以上を中心に乗用車が、また、タクシーやバスが公共交通機関として広く用いられている。しかしこれがバンコクを世界有数の渋滞都市にしている。

このため、更なる地下鉄や高架鉄道の路線の建設が進められている他、スワンナプーム国際空港との連絡鉄道の建設が進められ、2010年8月23日にエアポート・レール・リンクとして開業した。また、排気ガス浄化のためにタクシーの定期的な新型車両への代替が義務付けられている。

また、バンコクではチャオプラヤー川が南北を横断しており、これを利用した定期ボートが頻繁に運航されている他、運河を縫って船舶路線網が完備されており、渋滞の心配がないため多くの市民や観光客に利用されている。

ボート

チャオプラヤー川ではチャオプラヤー・エクスプレスと呼ばれる水上交通も利用されている。運賃は5バーツから。またセーンセープ運河を中心に市営ボートも運営されているほか、トンブリー区やミンブリー区を中心にロング・テイル・ボートが運航されている。

鉄道

国鉄

バンコク駅(フワランポン駅)を起点として、チエンマイやパッタヤーをはじめとする国内各地に路線を伸ばしている。また、マレーシア・シンガポール・ラオス方面への国際列車もある。詳細はタイ国有鉄道を参照のこと。

BTS

1999年12月に、バンコク都内の渋滞解消の切り札として高架鉄道 **BTS**(Bangkok Mass Transit System、通称スカイトレイン)が開業した。北 - 東を走るスクムウィット線と、南 - 西を走るシーロム線から成っており、両線はサイアム駅(サヤーム駅)で交わっている他、郊外鉄道の駅とも接続している。初乗りは**15**バーツ(一部区間**10**バーツ)。現在路線延伸工事を複数行っている。

地下鉄

また、2004年7月3日にはバンコクに初の地下鉄が開通した。バンコク・メトロが経営している。上記のBTSと同じくエアコン完備の上に渋滞の影響を全く受けない上、郊外鉄道のいくつかの駅の他にBTSの路線とも接続しており利便性が高い。国鉄駅のフワランポン駅とバーンスー駅とを都心部を経由して結ぶブルーラインと、バンコク北西部とノンタブリー県とを結ぶパープルラインから成っている。現在路線延伸工事を複数行っている。

エアポート・レール・リンク

2010年8月23日、スワンナプーム国際空港とバンコク中心部のマッカサン駅やパヤータイ駅を結ぶ空港連絡鉄道、エアポート・レール・リンクが開業した。

また、バンコク(フワランポン)駅の中央駅としての機能は、2020年頃に終わり、鉄道博物館となる予定で、バンコクの中央駅としての機能は、バンコク北部にあるバーンスー駅に移される予定だ。

バス

路線バス

バンコク大量輸送公社(BMTA)が運営する^{[21][22]}。このバスは「エアコン・バス」、「ノンエアコン・バス」、などに分かれ、運賃についても、エアコン・バスは距離によって10 - 23バーツ、ノンエアコン・バスは扇風機なし(赤バス)は7.5バーツ、扇風機つき(白バス)は8.5バーツとなっている。ワンマン化は進んでおらず、バス車両はキャブオーバー型の非ワンマン仕様車が多く使用されている。一部路線では連節バス(エアコンつき)も運行されている。時刻表はなく数多くの本数が走っているが、渋滞の影響を受ける。

中長距離バス

チェンマイやパッタヤー、プーケットやチャンタブリーなどの国内主要都市の他、カンボジアやマレーシア、ミャンマーとの国境地域への長距離バスが頻繁に運行されている。なおこれらの長距離バスにもエアコン装備とノンエアコンの2種類が存在する。

郊外に3つのバスターミナルがある。

- 北バスターミナル - タイ北部、東北部



バンコクの渋滞



通勤ボートの船着場



BTS(バンコク・スカイトレイン)サラデーン駅の付近



バンコク大量輸送公社のノンエアコン・赤バス(日野AK176)

- 東バスターミナル - タイ東南部
- 南バスターミナル - タイ南部

タクシー

タクシーは初乗り35バーツ(タクシーメーター)と経済的な上に、冷房完備である。主にトヨタカローラや日産ティーダ、三菱・ランサーなどが使用されており、定期的な新型車両への代替が義務付けられていることから、殆どが現行車種の年式が新しいものを使用している。なお、メーター制でないタクシーであったり、メーターがあっても、旅行者相手の場合や、時間帯、天候によってはメーター使用を拒否され、高めの料金を提示する場合などもあり、どのタクシーであっても、乗車前に行き先を伝え、メーターを使うか確認、もしくは料金交渉をしてから乗車する必要がある。

トゥクトゥクやソンテウ

有名なトゥクトゥクは、安全性の観点と排気ガス規制などの理由から現在新規登録ができなくなっており、これから減少が予想される。なお、最初に値段を交渉して乗る必要がある。

主に郊外の小道でよく利用されるのが、ピックアップトラックの荷台を改造したソンテウと呼ばれるミニバスや、モーターサイ(いわゆるバイクタクシー)などがある。



トゥクトゥク

航空

世界のハブ

バンコクはクアラルンプールやシンガポールなど、ヨーロッパ諸国から東南アジア各国やオーストラリアなどへの中継地点として、また、アジアのハブ空港でもある。タイ・エアアジアやノック・エア、バンコク・エアウェイズなどのタイ国内線やアジア圏内を運航する格安航空会社が乗り入れている。



スワンナプーム国際空港

2つの空港

2006年9月28日には、世界最大の規模を持つ空港となるスワンナプーム国際空港が、バンコク中心部から32km東方のサムットプラカーン県バーンプリー郡に開港した。スワンナプーム国際空港はドンムアン国際空港に代わるバンコクの主要空港として、また、アジアのハブ空港として、観光国タイの表玄関として世界中から航空路線が集まっている。なお、ドンムアン国際空港も、第2空港として国際線、国内線用に引き続き使用されている。

日本との便

また、日本からは成田国際空港発着便を中心に東京、大阪、名古屋、福岡、仙台などの主要都市からタイ国際航空(成田、羽田、関西、中部、福岡、新千歳、仙台)や日本航空(成田、羽田、関西、中部)、全日空(成田、羽田)、デルタ航空となどがそれぞれ1日に1便-数便運航している他、台北市や香港、澳門経由で行くこともできる。

観光

交通の要所である上に観光資源が豊富なこともあり、東南アジア観光の中心地である。マスターカードが2016年に公表した統計によると、「世界で最も外国人が訪れる都市」と算定された^[23]。また、アメリカの旅行雑誌『トラベル+レジャー』によって、2010年から4年連続で世界一の観光都市と評価されている^[24]。

寺院や歴史的建造物が多数存在する他、物価も比較的安いことから、カオサン通りなどバックパッカーが集まる一帯もある。他にも、中心部にある「パッポン通り」や「ソイ・カウボーイ」などはバーやクラブが立ち並ぶなどナイトライフが活気を見せている。これらの地域はベトナム戦争当時、レスト・アンド・レクリエーション(戦時休暇)のためにバンコクを訪れたアメリカ軍兵士が多く来たことから急速に発展し、現在も世界各国の多くの観光客をひきつけている。



ワット・ブラケーオ

- 王宮
- ジム・トンプソンの家
 - ジム・トンプソンアウトレット

- シーロム通り
- チャオプラヤー川

- 水上バス
- ナーナー・エンターテイメント・プラザ
- パッポン通り
- バンコク国立美術館
- ラチャダムヌン・スタジアム



ワット・アルン

- [ルンピニー公園](#)
- [ルンピニー・スタジアム](#)
- [ワット・アルン](#)
- [ワット・プラケーオ](#)
- [ワット・ポー](#)
- [カオサン通り](#)

ホテル

中心部やチャオプラヤー川沿いには世界的に著名な [マンダリン・オリエンタル・バンコク](#)や [ザ・ペニンシュラ・バンコク](#)、 [シャングリ・ラ ホテル バンコク](#)などの最高級ホテルが立ち並び、また、それ以外にも [フォーシーズンズ・ホテル・バンコク](#)や [ザ・スコタイ・バンコク](#)など多数の最高級ホテルが林立している。

- [アマリ・ウオーターゲート・ホテル](#)
- [インターコンチネンタル・バンコク](#)
- [オークラ プレステージバンコク](#)
- [グランド スクンビット バイ ソフィテル](#)
- [グランド・ハイアット・エラワン・バンコク](#)
- [コンラッド・バンコク](#)
- [ザ・スコタイ・バンコク](#)
- [ザ・ペニンシュラ・バンコク](#)
- [シャングリ・ラ ホテル バンコク](#)
- [デュシタニ・バンコク](#)
- [バイヨークスカイホテル](#)
- [フォーシーズンズ・ホテル・バンコク](#)
- [マンダリン・オリエンタル・バンコク](#)
- [ミレニアム・ヒルトン・バンコク](#)
- [メトロポリタン・バンコク](#)
- [ロイヤル・オーキッド・シェラトン・ホテル&タワーズ](#)



マンダリン・オリエンタル・バンコク

姉妹都市

-  [ワシントンD.C.](#)([アメリカ](#))- **1962年2月19日**
-  [北京市](#)([中国](#))- **1993年5月26日**
-  [モスクワ](#)([ロシア](#))- **1997年6月19日**
-  [マニラ](#)([フィリピン](#))- **1997年6月24日**
-  [サンクトペテルブルク](#)([ロシア](#))- **1997年^[25]**
-  [ブダペスト](#)([ハンガリー](#)) - **1997年**
-  [ブリスベン](#)([オーストラリア](#)) - **1997年**
-  [ジャカルタ](#)([インドネシア](#)) - **2002年**
-  [ハノイ](#)([ベトナム](#)) - **2004年**
-  [ヴィエンチャン](#)([ラオス](#)) - **2004年**
-  [アスタナ](#)([カザフスタン](#)) - **2004年**
-  [潮州市](#)([中国](#))- **2005年11月23日^[26]**
-  [ソウル特別市](#)([韓国](#))- **2006年**
-  [アンカラ](#)([トルコ](#))- **2006年**
-  [ウランバートル](#)([モンゴル](#))- **2006年**
-  [福岡県](#)([日本](#))- **2006年2月8日**
-  [ミラノ](#)([イタリア](#))- **2007年**

- リヴァプール(イギリス) - 2007年
- シドニー(オーストラリア) - 2007年
- パース(オーストラリア) - 2007年
- スチョルダール(ノルウェー) - 2009年^[27]
- イスタンブール(トルコ) - 2009年^[28]
- ローザンヌ(スイス) - 2009年
- 釜山市(韓国) - 2011年
- 重慶市(中国) - 2011年
- 天津市(中国) - 2012年
- ジョージタウン(マレーシア) - 2012年
- 愛知県(日本) - 2012年
- 広州市(中国)^[29]
- ラーグンダ(スウェーデン)

友好都市

- 八千代市(日本) - 2008年5月17日(人口規模などで差が大きいが「こども親善大使」受け入れなど20年来の交流実績があることから実現した)
- ケープタウン(南アフリカ共和国)

風景



ルンビニー公園とバンコク中心部の夜景

舞台となった作品

映画

- 東京-ソウル-バンコック 実録麻薬地帯 (1973年) - 主演：千葉真一
- 激殺! 邪道拳 (1977年) - 主演：千葉真一
- MW (漫画) (2009年) - 主演：玉木宏

脚注

- ↑ 世界の都市圏人口の順位(2016年4月更新) (<http://www.demographia.com/db-worldua.pdf>) Demographia 2016年10月29日閲覧。
- ↑ “タイ王国の概要 | 【公式】タイ国政府観光庁 (<https://www.thailandtravel.or.jp/about/outline/>)”。2017年6月21日閲覧。
- ↑ “6 เมษายน - วันจักรี (http://www.culture.go.th/cday/index.php?option=com_content&view=article&id=685%3A2011-03-28-15-11-41&catid=42%3A0403&Itemid=76&showall=1)”。Department of Cultural Promotion. 2011年6月16日閲覧。
- ↑ “ประกาศกระทรวงมหาดไทย เรื่อง ทรงพระกรุณาโปรดเกล้าฯ ให้เปลี่ยนคำว่าเมืองเรียกว่าจังหวัด” (<http://www.ratchakitcha.soc.go.th/DA/TAPDF/2459/A/51.PDF>) (Thai). *Royal Gazette เล่ม ๓๓* (ตอน ๐ ก): หน้า ๕๑-๕๓. (๒๘ พฤษภาคม ๒๔๕๙).
- ↑ “ประกาศของคณะปฏิวัติ ฉบับที่ ๒๔” (<http://www.ratchakitcha.soc.go.th/DATA/PDF/2514/A/144/816.PDF>) (Thai). *ราชกิจจานุเบกษา เล่ม ๘๘* (ตอน ๑๔๔ ก): หน้า ๘๑๖-๘๑๙. (๒๑ ธันวาคม ๒๕๑๔).

6. ^ “ประกาศของคณะปฏิวัติ ฉบับที่ ๑๖๘” (<http://www.ratchakitcha.soc.go.th/DATA/PDF/2515/A/190/187.PDF>) (Thai). ราชกิจจานุเบกษา เล่ม ๘๙ (ตอน ๙๓ ก ฉบับพิเศษ): หน้า ๑๘๗-๒๐๑. (๑๗ มิถุนายน ๒๕๑๕).
7. ^ ^{a b} 富田 [1997] p.820
8. ^ ^{a b} 小杉 [2003] p.11
9. ^ La Loubère [1693] p.4
10. ^ “30 year Average (1961-1990) - BANGKOK METROPOLIS (https://web.archive.org/web/20100414060908/http://www.tmd.go.th/en/province_stat.php?StationNumber=48455)”. Thai Meteorological Department. 2010年4月14日時点のオリジナル (http://www.tmd.go.th/EN/province_stat.php?StationNumber=48455)よりアーカイブ。2010年4月19日閲覧。
11. ^ “Climatological Normals of Bangkok (http://www.hko.gov.hk/wxinfo/climat/world/eng/asia/se_asia/bangkok_e.htm)”. Hong Kong Observatory. 2010年6月24日閲覧。
12. ^ “Climate Normals for Bangkok (<ftp://dossier.ogp.noaa.gov/GCOS/WMO-Normals/RA-II/TH/48455.TXT>)”. National Oceanic and Atmospheric Administration. 2013年2月5日閲覧。
13. ^ タイ王国政府観光庁[1] (<https://www.thailandtravel.or.jp/?s=%E3%83%90%E3%83%B3%E3%82%B3%E3%82%AF%E9%83%BD>) 「バンコク都」で検索
14. ^ 在タイ日本国大使館 [2] (http://www.th.emb-japan.go.jp/itpr_ja/consular_houjin.html) バンコク都内の警察署および病院について記載
15. ^ “ด่วน! ใช้ม.44 ให้สุขุมพันธุ์และทีมรองฯพ้นจากตำแหน่ง ตั้งอัครวิมล ขวัญเมือง เป็นผู้ว่าฯกทม.” (<http://www.matichon.co.th/news/326122>). *matichon*. (2016年10月18日) 2016年10月18日閲覧。
16. ^ Cities Rank Among the Top 100 Economic Powers in the World (<https://www.thechicagocouncil.org/issue/global-cities>) Chicago Council on Global Affairs 2016年10月28日閲覧。
17. ^ Global Financial Centres Index (<http://www.zyen.com/research/gfci.html>) z/yen 2016年10月29日閲覧。
18. ^ Global Cities 2017 (<https://www.atkearney.com/documents/10192/12610750/Global+Cities+2017+-+Leaders+in+a+World+of+Disruptive+Innovation.pdf/c00b71dd-18ab-4d6b-8ae6-526e380d6cc4>) AT Kearney 2017年公表 2017年8月4日閲覧。
19. ^ タイ統計局による家計調査 (http://www.newsclip.be/news/2010426_027330.html)
20. ^ 海外在留邦人数調査統計 平成28年版 (<http://www.mofa.go.jp/mofaj/files/000191217.pdf>)
21. ^ 『鉄道ジャーナル』2010年10月号(No.528)p.156-p.157 鉄道ジャーナル社
22. ^ また、バンコクのバス事情については「バンコクのバス特集 (http://members.ld.infoseek.co.jp/mai_kawabus/tokushu/thai/thai01.htm#top)」に詳しい。
23. ^ Bangkok Takes Title in 2016 Mastercard Global Destinations Cities Index (<http://newsroom.mastercard.com/press-releases/bangkok-takes-title-in-2016-mastercard-global-destinations-cities-index/>) Mastercard 2016年10月29日閲覧。
24. ^ World's Top 10 Cities 2015 (<http://www.travelandleisure.com/slideshows/worlds-best-cities/5>) Travel + Leisure 2016年10月29日閲覧。
25. ^ St. Petersburg in figures > International and Interregional Ties (<http://eng.gov.spb.ru/figures/ities>)
26. ^ https://archive.is/20120702214127/office.bangkok.go.th/iad/eng/viewpage.php?page_id=38
27. ^ "Bangkok er ny vennskapsby" (http://stjordanl.adressa.no/index.php?option=com_content_lokal&task=view&id=1852&Itemid=5). *Adresseavisen*. Retrieved on 29 May 2009.
28. ^ >Istanbul and Bangkok Become Sister Cities (<http://haber.turk.net/ENG/2298708/-gen--Istanbul-and-Bangkok-Become-Sister-Cities>)
29. ^ “Sister Cities of Guangzhou (<https://web.archive.org/web/20111020140927/http://www.gzwaishi.gov.cn/Item/3970.aspx>)”. Guangzhou Foreign Affairs Office. 2011年10月20日時点のオリジナル (<http://www.gzwaishi.gov.cn/Item/3970.aspx>)よりアーカイブ。2010年2月10日閲覧。

参考文献

- 富田竹二郎編著『タイ日大辞典』めこん、第三版1997年10月1日 ISBN 978-4-8396-0114-0
- 友杉孝「バンコク史スケッチ」『アジア遊学 No.57』勉誠出版、2003年、pp.10-22 ISBN 978-4-585-10308-0
- La Loubère, Simon de, *A New Historical Relation of the Kingdom of Siam*, London: 1693

関連項目

- 世界一の一覧
- バンコク銀行
- バンコクの市場
- アサニー・ワサン(タイの人気兄弟デュオ。**1989**年にバンコクの非常に長い名称に曲をつけて歌い、大ヒットさせた)
- マレイ・ヘッド (**1985**年に「ワン・ナイト・イン・バンコック」をリリースした。)
- BNK48

外部リンク

政府

- バンコク都庁 (<http://www.bangkok.go.th/>) (タイ語) (英語)

日本政府

- 在タイ日本国大使館 (<http://www.th.emb-japan.go.jp/>) (日本語)

観光

- バンコク観光局 (<http://www.bangkoktourist.com/>) (日本語)
- タイ国政府観光庁 - バンコク (<http://www.thailandtravel.or.jp/area/bangkok.html>) (日本語)
- バンコクナビ (<http://www.bangkoknavi.com/>) (日本語)
- バンコク観光案内 (<http://thai1.jp/>) (日本語)
- ウィキトラベル旅行ガイド - バンコク (<http://wikitravel.org/ja/バンコク>) (日本語)

その他

- 地図 (<https://maps.google.com/maps?q=バンコク&ie=UTF8&t=h&z=12>) - Google マップ

「<https://ja.wikipedia.org/w/index.php?title=バンコク&oldid=75420619>」から取得

最終更新 2019年12月19日 (木) 20:14 (日時は個人設定で未設定ならばUTC)。

テキストは クリエイティブ・コモンズ 表示-継承ライセンス の下で利用可能です。追加の条件が適用される場合があります。詳細は 利用規約 を参照してください。